

医療法人

# 秋田病院

愛知県知立市

1962年に秋田病院整形外科・外科医院として開院した秋田病院は、現在整形外科・内科・外科を主要3科として12診療科を持ち、知立市の中心的病院へと発展している。同院は「誠実な医療、信頼される病院」「地域貢献」「明るく活気のある病院づくり患者様の笑顔、職員の笑顔」という理念の下で、地域に根差した医療を実践し、近隣住民からの支持を得ている。今回は、長年お使いいただいた7180から3500に更新された同院で、装置の使用実感や検査科にどんな好影響をもたらしたかをうかがった。

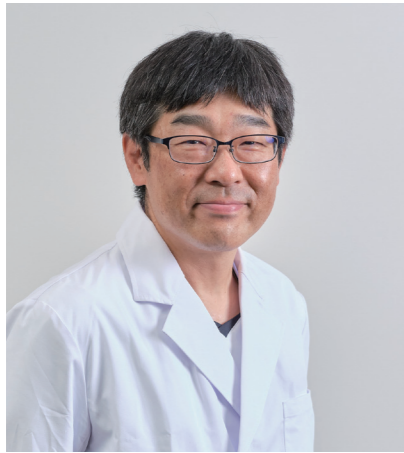


## 3500は検査科の意欲を高める起爆剤のような存在です。

経営管理室 部長 宇塚 明生

「検査科からの情報発信と提案が、病院全体の活性化にもつながっています。」

運用サポートプランにより操作や保守に関してタイムリーかつface to faceに相談でき現場スタッフのストレスも軽減しているのではないのでしょうか。緊急を要する検査が院内で測定できるようになったのは、安心・安定した医療の提供につながります。生化学と生理機能検査のオーダーが増えることは病院経営にプラスですが、検査科にとっても、患者さんやその家族からの感謝やねぎらいとは別の視点でのやりがいにもなったと感じています。検査科が主体となって勉強会を開き、活用法を発信してくれるので、院内に新しい情報を還元することになり、相乗効果は非常に大きいです。



## 日立ハイテク製品の信頼性の高さを、あらためて実感しています

主任技師 小松 勇人

「全体のコストは以前とほとんど変わりません。」

全国的に評価が高い7180も更新時期を迎えたので3500を導入しました。実際に大きなトラブルは皆無でしたから、日立製品の信頼性の高さは機種選定の大きな要素になりました。3500導入後は、BNPやDダイマーの院内測定も開始でき、医療の幅が広がったことが一番のメリットだと認識しています。院内の勉強会で、新たに測定可能になった項目をプレゼンした際は、臨床からの反応も良く、実際にオーダー件数も増えており、検査が発展していく手応えを感じています。このサイズで凝固も測定でき、全体のコストはほとんど以前と変わらないと思います。HbA1cも今は専用機で検査していますが、いずれ更新時期が来るので、その際は3500に集約することも視野に入れています。



## 検査項目が増え、臨床のニーズにも対応できています。

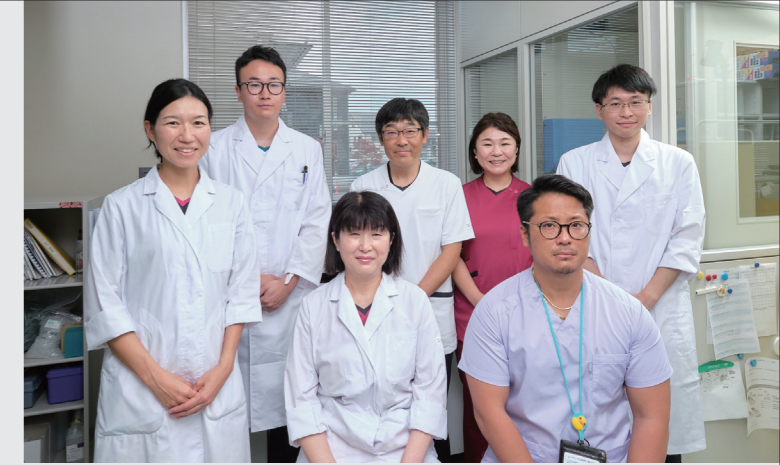
副主任技師 若山 あけみ

「臨床からも導入して良かったという声が届いています。」

前機種の7180と凝固の手法の専用機が同時期に更新時期を迎えたことと、検査の集約を考えていたので凝固も測定できる3500を導入しようと考えました。業務の効率化により余裕ができ、検体数も少なく7180では導入に至っていなかったDダイマーやFDPも導入に向けて院内に働きかけたことにより、件数も増えました。また、散乱光度計を備えているため、BNPが測定できるようになったこともメリットです。導入後はエコー検査と同日に結果を返すことができ、患者さんへの還元、臨床のニーズにも応えることができうれしいです。業務の効率化を図るうえで誰もがすぐ操作に慣れることはとても重要だと考えます。



開院：昭和37(1962)年  
所在地：愛知県知立市市2-6-12  
病床数：150床 1日の検体数：約50件



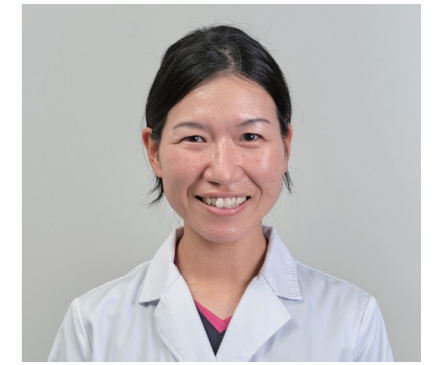
左から：小松 技師、関本 技師、太田 科長、小松 主任技師、若山 副主任技師、宇塚 経営管理室 部長、川上 技師

## 運用サポートにより装置の機能を最大限活かせるようになりました。

技師 小松 綾子

「運用サポートプランは心強いです。大きなトラブルはありませんが、サポートの方の顔を見るとホッとします。」

これまではエラーが出ると装置メーカーと試業メーカーに連絡していましたが、運用サポートプランでは問合せ先が1つになり解決までが早くなりました。定期訪問の際に反応過程の見方やアラームが出た時のチェックポイントやよくある原因を教えていただけることで少しずつ使いこなせるようになりました。データトラブルへの対応がよりしっかりできるようになり異常値が出た際の再検率が減りました。サポートの方とお話する中で自分たちの手技やメンテナンスを見直すきっかけになり、大きなトラブルもなく安定した運用でデータを返せるようになりました。

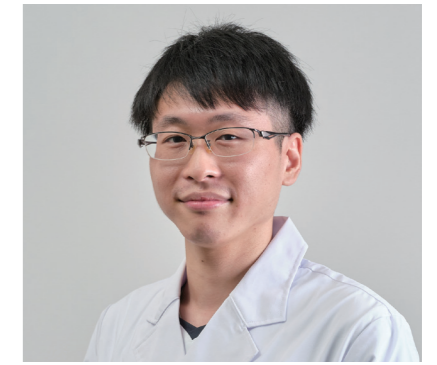


## 検体をすぐ装置に載せられるので検査効率がアップしました。

技師 川上 泰幸

「画面がタッチパネルになって、感覚的に操作できるのもいいですね。」

前機種の7180は、検体を装置に載せる際、オペレーションの終了を待つ必要がありましたが、3500は検体の測定中でも、次々に検体を載せることができるのは大きな利点です。そのためタイムロスがなくなり、以前よりも早く検査の結果を臨床に返すことができます。またスリーブ機能がより使いやすくなりました。3500では曜日ごとに立ち上がり時間を設定できるので、メンテナンス内容により自由に設定できます。これまで日動帯に行っていた追加のメンテナンス事項を組み込んで立ち上げ時に自動で行えるようになりました。

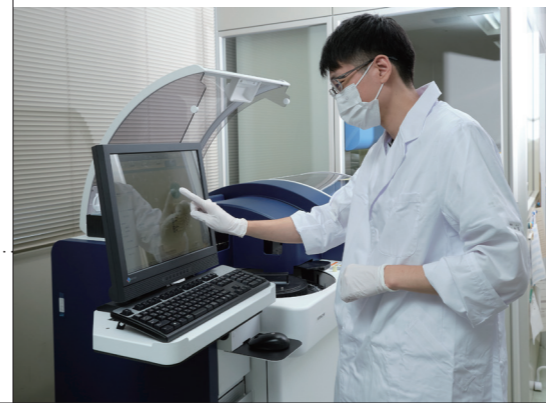
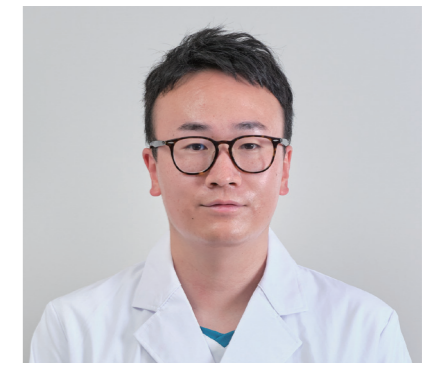


## 欲しい情報がすぐ得られるオーバービュー画面が便利です。

技師 関本 悠貴

「機械の構造、配置などは7180とほとんど変わらないため違和感なく扱うことができます。」

3500は画面のデザインが非常に見やすく整理されていると感じます。特に、システムオーバービューは全体の状況を一目で確認できて対応もしやすいです。サポートの方には当院に合った運用を丁寧に教えていただきました。目安を設定したことで安心して運用できています。当院ではローテーションで生化学を担当しており、働き方改革を進めるうえで誰でも使いやすいデザインなのは重要だと考えます。これまで大きなトラブルはなく、信頼性の高さは評判通りです。



導入によるメリット

装置の集約

臨床のニーズにも対応

3500×1台  
2023年3月導入



3500 製品情報はこちら